令和元年度 上田市立南小学校 学校自己評価シート(前期分報告)

学校目標	めざす子ども像 ～笑顔輝く南っ子～		
あたたかく たくたく	1	すすんで勉強する子ども	【知:たたく】
	2	体をきたえる子ども	【体:つよく】
	3	がんばりぬく子ども	【体:つよく】
	4	自分で決めて行う子ども	【知:たたく】
	5	思いやりのある子ども	【徳:あたたかく】
今年度の重点目標(重点活動)			
知:正しく	わくわく学び合い	①じっくり考え、しっかり書く	
徳:温かく	にこにこ響き合い	②聴き合い、伝え合い、学び合う	
体:強く	とんとん磨き合い	③自分からあいさつや返事をする	
		④歌声やさんづけ呼称でつながる	
		⑤力を合わせ、清掃に取り組む	
		⑥自分の命と体は自分で守る	

総合評価					
本年度も「全職員で全校の児童を見守る」という共通意識のもと、お互いに関わり連携し合いながら子どもたちを見ていく姿勢を大切に教育活動を行っている。しなければならぬことを理解している子どもたちに、その意義と具体的な手立てを明確に示し、自発的に活動に取り組む子どもたちの育成を図っていききたい。					
成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策
子どもたち一人ひとりが、やるべき事を意識して活動することができている反面、「聴き合う姿」や「お互いが通じ合う挨拶」等、相手を意識した活動の充実をさらに考えていく必要がある。		○			児童会の月目標、また個々のめあての意識付けや振り返りを継続して行い、主体的な姿につながるようにしたい。よさを認め合い、広めていったり、さんづけ呼称を通してお互いの立場を認め合ったりすることで、自己肯定感をさらに高めていくことができるようにする。

領域	対象	評価項目	評価の観点
教育活動	学年・学級経営	⑤気づき清掃の推進・奉仕精神の醸成	ひざつき清掃など、具体的な清掃の方法を指導し、自分から気づいて前よりきれいにするこで、協働することのよさや奉仕の大切さを意識させることができたか。
		⑥規範意識の高揚と危機管理意識の向上のための指導	校内生活で「右側廊下歩行」の徹底をさせて規範意識の高揚を図れたか。通学時に「道路横断前後の立ち止まり(確認・挨拶)」を意識付け、実践させることはできたか。
		③気持ちのよいあいさつの充実と返事の徹底	積極的な声かけや児童会活動との連携で、気持ちのよいあいさつや返事のよさを自覚させ、快適な学校生活に向けて取り組んでいるか。
		④響き合う歌声や交流活動による認め合える仲間づくり	仲間と歌声を響き合わせたり、異学年や地域の方々とのふれあい交流を行ったりすることで、互いに認め合える集団づくりを進めているか。
	学習指導	①授業のユニバーサルデザイン化・南小スタイルの推進	校内及び教室環境や教材の整備ができたか。「学習問題」「まとめ」を板書計画に位置づけ、授業の流れがわかる板書の工夫ができたか。
		①じっくり考え、しっかり書く振り返りの時間の確保	1時間で学んだ内容を書いたり、学び方を振り返ったりする時間を確保し、子どもの考えの変容や定着状況を確認しているか。
		①基礎基本の定着・家庭学習の充実	ドリルや学びの時間で、つまづきを把握して、丁寧な指導を行い、基礎基本の定着を図れたか。「家庭学習の進め方」をもとに家庭と連携した家庭学習の充実にも努めているか。
		②わからないことを聴き合い、考えを伝え合い、学び合う授業づくり	ペアやグループでわからないことや互いの考えを聴き合い、自分たちの考えを深め合い、それを伝え合いとなる学習場面を設定しているか。
		信頼関係でつながる学校づくり	学校・学年・学級だよりや懇談等を通して、学校での子どもの様子を伝えたり、うれしかったことや心配なことなど個別に連絡を取り合ったりすることができたか。
		南っ子応援隊の活用・三点固定の生活習慣の確立	地域の方と連携した教育活動を昨年以上に広めることができたか。家庭と連携してメディアと向き合う時間・家庭学習時間・就寝時刻等の固定による望ましい生活習慣の育成を図ることができたか。
地域との連携	学校作り	信頼関係でつながる学校づくり	学校・学年・学級だよりや懇談等を通して、学校での子どもの様子を伝えたり、うれしかったことや心配なことなど個別に連絡を取り合ったりすることができたか。
		南っ子応援隊の活用・三点固定の生活習慣の確立	地域の方と連携した教育活動を昨年以上に広めることができたか。家庭と連携してメディアと向き合う時間・家庭学習時間・就寝時刻等の固定による望ましい生活習慣の育成を図ることができたか。

成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策
なかよし清掃等を通して、ひざつき清掃、気づき清掃など、「形」として定着してきている。清掃にしっかりと向き合い、どのようにきれいにしていくか、さらに子どもたちと考えていききたい。校舎内の歩行については、個々の意識の差はあるものの、落ち着いて歩く姿が増えている。登下校時については、廊下歩行に比べると意識が薄く、継続した指導が必要である。	○				教師の示範や高学年が見本を示す事を通して、「きれいにするのができた」という達成感を味わうことができるようにしていく。
担任以外が声をかけても挨拶を返してくれる児童も多く見られるようになったが、まだ受け身の児童も多いと感じる。		○			児童会での継続的な取り組み・呼びかけを行っていく。定期的な集団下校・集団登校で大切なルールを全体で確認していく。
どの教室でも、毎朝朝の会で歌うことが定着している。兄弟学級、縦割り班での活動も児童会等の取り組みを通して定期的に行われ、円滑に交流する姿が多く見られた。	○				子どもたちが進んで挨拶をする姿(自分から、他学年に対しても)を認め、広めていく。そのような挨拶が、お互いが気持ちよ々と感じる挨拶となることを伝えていく。
授業の流れをパターン化したり板書を工夫したりして、見通しを持って児童が授業に取り組む手立ては、日常的に行うことができている。さらに児童が具体的に活動することができる課題設定を意識していききたい。	○				児童会活動で培われた「お互いに認め合う姿」を2学期以降の交流活動に生かせるよう、声かけをしたりよい姿を認め合ったりしていく。
全ての授業で行うことは難しいが、必要な時間を絞り、その時はじっくり書かせる時間を確保するようにしている。書く以外にも短時間で授業を振り返ることのできる学習プリントの工夫も行っているところもある。		○			「授業の約束」をもとに、全職員が統一して分かりやすい授業をめざしていく。さらに個々へのきめ細やかな指導も継続して行っていく。
児童の実態に合わせた教材や指導を工夫したり、朝ドリルの時間で丸付けボタンティアの方々に入って丁寧に見ていただき、定着を図ってきている。家庭学習では、家庭との連携をさらにとる必要がある。		○			授業の時間配分を考え、その時間に合った振り返り(じっくり書かせる、丸をつけて自己評価する等)を時間をしっかり確保し、学んだ内容の見直しと定着を図っていく。
子どもたちが意欲的に活動できるための様々な学習形態の工夫が多く見られる。必要感のある話し合いとなるよう、さらに工夫していききたい。		○			ドリルの時間や学びの時間など、個別に対応することのできる時間をしっかり確保し、基礎基本の定着を継続して図っていく。家庭学習についても、家庭での取り組み方など、連携に努めている。
学校評価では、子どもたちが楽しく学校に通っているという評価が %であった。連絡帳や電話等でも、児童の様子についてお互いに共有することができた。		○			場面ごとの学習形態の工夫が見られるので、さらに必要感のある関わりとなるよう、めあてを明確にしたペア活動、グループ活動を仕組んでいく。
日々の授業や行事に積極的にボランティアの方々に入ってもらい、児童支援をしていただいた。多くの目で子どもたちを見ていただき、活動も充実したものとなった。また、本年度メディアデーを実施し、家庭での生活習慣を振り返るよい機会ともなった。		○			学校便りや学年通信等で引き続き学校での様子や取り組み等を積極的に発信していく。少しのことであっても必ず連絡を取り合ったり、必要に応じて学年や学校全体の課題として迅速に対応していきたりする。

※評価基準 A…達成できた B…おおむね達成できた C…やや達成できなかった D…達成できなかった